

リード選びの苦勞から解放される歓び

「このリード、 もう3年も 使ってます！」

レジェール・リードで

今使っている

マウスピースやリガチャーとの

ベストマッチを見つければ、

リード選びの苦勞は

もう過去のもの……

レジェール嫌いの人こそ

読んでみてください！

葦のリードを買っても買ってもハズレばかり。
そんな時にシグネチャーが出て「これはいける！」と。

——雲カル（雲井雅人サックス四重奏団）

の皆さんは、早くからレジェール・リードを使い出して話題になりましたね。

林田 最初に使い始めたのが、バリトンの西尾（貴浩）さん。次がテナーの僕。

その後にアルトの佐藤（渉）君とソプラノの雲井先生が使い始めました。雲井先生はその後、葦のリードに戻りましたけども。

——どんなきっかけで？

林田 僕は何しろ当時、リード難民だったんです。葦が不作の年だったようで、買っても買ってもハズレばかり。ありとあらゆるリードを試しても、繊維が強すぎて固いバサバサした音にしかならない。そんな時にレジェールの「シグネチャー（Signature）」が出て、吹いてみたら「これはいける！」と。それで思い切ってテナーからレジェールに乗り換えたのが最初です。



音の雑味成分が
極端に少ない

——何が良かったんですか。

林田 一番気に入ったのは、音の雑味成分が極端に少ないことです。もともと僕は、そうした雑味を排除していきたいタイプだということもあった。

レジェールは、倍音が強く出るような響きではなく、基音がどっしりと鳴る感じのリードで、それが自分の音色感と合ったんですね。葦のリードにありがちなキンキンした成分が少なく、とても音が落ち着きます。オーケストラの仕事で「展

覧会の絵」や「アルルの女」などをレジェールで吹いたら、木管楽器の人たちに「音が落合ってすくいい」と褒めてもらえました。

——モワッとした音にはならない？

林田 それはリードじゃなく、奏法の問題。リードに頼って音の輪郭をはっきりさせるのではなく、僕は自分の奏法で音の輪郭を作りたい。そのためには、ニュートラルな音の状態で出来るだけ音に雑味がない方がありがたいんです。葦のリードだと、どう吹いても音に雑味が混じる感じがします。

——高次倍音が欲しいタイプの人はレジェールは合いくいというんですか？

林田 いえ、これはもちろん人にもよりますし、どんなマウスピースを使っているかにもよります。マウスピースによって音に雑味が混じるものがありますので、自分のマウスピースとの相性で結果的に合う合わないの問題になると思います。もし雑味成分ゼロのマウスピースでレジェールを使い、それでも出す音に雑味成分が欲しい、というような人には合わないかも知れませんが。

——クラリネットでは、特にバスクリネットなどの低音楽器でレジェールとの相性の良さがいち早く認められました。雲カルでも最初に使われたのはバリトンの西尾さん……。

林田「レジェールは、大きい楽器の方がより向いているよね」とみんな言います。リードの面積が大きいと振動のノイズが大きくなるのに、レジェールの場合

林田和之

●サクソフォン奏者

Kazuyuki Hayashida

尚美学園短期大学を経て東京
コンセルヴァトアール尚美ディ
プロマコース修了。第2回アドル
フ・サククス国際コンクール第6
位。第16回日本管打楽器コンク
ール第1位。NHK-FM「FMリサイ
タル」、「ベストオブクラシック」
に出演。ソロCDに「Lessons of
the Sky」があり、メンバーである
雲井雅人サククス四重奏団のテ
ナー・サクソフォン奏者として
も7枚のCDをリリース。オーケ
ストラ内のサクソフォニストと
しては新日本フィルハーモニー交響
楽団、サイトウキネン・オーケス
トラ、群馬交響楽団、大阪フィル
ハーモニー交響楽団からのファ
ーストコールを受けるほど信頼も厚
く、また作曲家・久石譲のコンサ
ート、レコーディング、ツアーにも
多数参加。主宰する「フェロー・
サクソフォン・カルテット」が
青山財団より「バロックザール賞」
を受賞。尚美学園大学、東京ミュ
ジック・メディアアーツ尚美ディ
プロマコース講師。最近では宅録
を趣味にしている（YouTube【林
田和之】で検索）。



イズが少なく、太くてしつかりとした音になるからそうなんでしょうかね。

——ダイナミックスの点でも過不足なく？

林田 まったく問題ないどころか、小さい音ではどこまでも小さくしていけます。葦のリードだと、ちょっと硬めのリードでは、クラリネットのように音を小さく絞って行きたいときに上手く行かないことがありますが、レジェールだと超安



今はアメリカンカットを中心に使い、マウスピースもそれに合わせて新しく替えた。

心して吹けますね。

——レジェールの最大の長所はリードが変化しないことだといわれますが、この点は評判どおりですか？

林田 それを一番実感するのは、梅雨や季節の変わり目の時期ですね。葦のリー

オーケストラの仕事でレジェールを使ったら
木管の人たちに「音が溶け合う」と褒めてもらえた。

ドだと、湿度の高い時期からカラッと乾いた時期に移行するようなとき、リードが反ってバサバサ感じになっちゃいますけど、レジェールの場合はそれが全くない。

——と言いつつも、仲間うちでは、夏は硬めのリード、冬は柔らかめのリードを選ぶという人は多いんです。口の中に入れて温まれば季節に関係なく同じだと思いの、実際問題、夏と冬とでは硬さの感じが変わる。夏は硬めのリードでないと柔らかく感じてしまうとか、冬は夏に良かったリードが硬く感じられるとか……。だから「夏用」と「冬用」のリードを用意する人は多いですね。

それと以前、雲カルのレコーディングでホルルの照明が暑かったとき、リードが柔らかく感じられて苦労しました。ただでさえレジェールのテナー用リードは柔らかめに設計されているようなので



シグネチャーは肉厚が薄めで、リガチャーとのフィッティングに要注意。アメリカンカットは肉厚が厚めなのでフィットしやすい。



右がアメリカンカット、左がシグネチャー。アメリカンカットの肉厚は厚い。

……。

——そうなんですか？

林田 テナーだけなぜか柔らかめなんです。モニターしたプレイヤーのマウスピースが影響したのかどうか？ だから、録音の時は氷水にリードを浸し、ローテーションして使いました。テナー以外のリードでも、もし柔らかめに感じられるようになったら「冷蔵庫に入れて一度冷やして使う」という人もいます。

レジェールに合わせて マウスピースを選ぼう!

——レジェールといえども、長い目で見て状態が変化するリードもあるということですか。

林田 実際は、最初と全く変わらないリードもあれば、少しだけ柔らかくなったと感じるリードもあります。柔らかくなったリード用に、僕は専用のマウスピースを1個用意しています。

——リードに合わせてマウスピースを用意するというのは普通とは逆ですね。
林田 レジェールの場合は、レジェールに合うマウスピースを選ぶことをまずお勧めしたいですね。葦のリードの場合は、リードにとにかく個性差があり、時間によって変質しますから、マウスピースを基準にしてリードを選ぶしかない。

ところがレジェールは、ほぼ安定していると言えるほど変化の少ないリードです。それから、それに合わせてマウスピースを選んだ方が得策だと僕は考えます。今使っているマウスピースにレジェールが合わないとしても、レジェールに合うマウスピースはきっとある。自分の好み合うようなマウスピースを見つけたことが出来れば、葦のようにリードを選ぶ苦労から解放されて、1年、2年、3年と変わらずに楽に吹き続けられるセッティングが手に入るわけですから、これは魅力ですね。

ただし、レジェールにも中には状態が変わるリードがあるのも確かなので、少

し柔らかく感じたリード用にも1個マウスピースを用意しておけばよい。そうしたセッティングが別であれば、通常よりも楽に吹きたいと思った時や、もしかしたら冬場などには柔らかいリードの方が合うかも知れない。そんな選択肢も拡がるわけです。

——林田さんがいまお使いのマウスピースは？

林田 いろいろの変遷を経て、今はセルマーの「コンセプト」です。やや抵抗があるマウスピースで、レジェールのリードは3番とか2・75番。

実は今どきのマウスピースは、リードをセットするテーブルの真ん中がやや凹んでいるんですね。一説によると、葦のリードは使っているうちに膨張するから、テーブルが真つ平らだとびったり接触しなくなる。それでわざと真ん中を凹ませているんだとか。ところがレジェールは膨張しませんから、テーブルは真つ平らの方が相性がよいんです。だから僕は、テーブルが凹んだマウスピースでレジェールを使う場合は自分でテーブルを真つ平らに削り直しています。

セルマーのコンセプトも、出た当初はフラットテーブルでしたが、今出ているものは凹んでいる。もともと重めに作っているマウスピースなので、音がもつさりし過ぎるのを嫌い、ピリッとした雑味が入るようにテーブルを変えたんじゃないかと。そうするとレジェールのぬめつとした音の良さが無くなるので、僕はテーブルをフラットにリフェイスしています。レジェールのぬめつとした音が嫌だとい

う人は、逆にテーブルが凹んでいることでピリッとした音になりますから良く感じる人がいるかも知れません。

——銀メッキの楽器を使っているってしゃるのは、やはりレジェールとの相性の良さから？

林田 ヤマハの純銀のネックがとても楽に軽く吹けるネックで、レジェールや自分のマウスピースとの相性が抜群だったんです。息の効率がすごく良くて、楽に吹けて暗い音が出るんですよ。おかげでレジェールとマウスピース、リガチャー、ネックのベストの組み合わせが完成した。楽器を銀にしたのは、僕らの世代、チェッカーズの藤井尚之さんへの憧れもあって……(笑)。銀にした方が暗くしつかりした音を出せると思うたし、息も冷房の冷気のようにゾーンと下に流れていく。いま自分が欲しいのはこの感じだと。



アメリカンカット



シグネチャー



クラシック

レジェール・リード(※価格は税込)

●アメリカンカット

アルトサックス(強度: 1.5~4 / 0.25刻み) ¥4,620
テナーサックス(強度: 同上) ¥4,950

●シグネチャー

ソプラニーノサックス(強度: 2~4 / 0.5刻み) ¥4,620
ソプラノサックス(強度: 2~4 / 0.25刻み) ¥4,400
アルトサックス(強度: 2~4 / 0.25刻み) ¥4,400
テナーサックス(強度: 2~4 / 0.25刻み) ¥4,730
バリトンサックス(強度: 2~3.5 / 0.25刻み) ¥4,840

●クラシック

ソプラノサックス(強度: 2~3.5/0.5刻み) ¥3,300
アルトサックス(強度: 2~3.5/0.5刻み) ¥3,300
テナーサックス(強度: 2~3.5/0.5刻み) ¥3,520
バリトンサックス(強度: 2~3.5/0.5刻み) ¥3,630
バスサックス(強度: 2~3.5/0.5刻み) ¥3,850

※アメリカンカットのソプラノサックス用(税込¥4,620)
バリトンサックス用(税込¥5,060) が近日発売予定!

ぜひ試してみたい アメリカンカット

——レジェールから最近「アメリカンカット (American Cut)」が出ましたが、これはどうですか？

林田 いま使ってます。と言うより、今はテナーもアルトもアメリカンカットがメイン。ジャズ用に開発されたと書いてありますが、クラシックにもすごく良い。

僕の場合、少し暗い音の方向に行きすぎて、もう少しピリッとした葦のよな成分が欲しいと思った時にこれが発売され、試してみたら本当にピッタリはまりました。アメリカンカットは、



レジェール嫌いの人も振り向かせる魅力があると思います。レジェール独特のぬめつとした感じだけでなく、ピリッと、パリッとした明るめの要素もある。吹奏感も軽く感じられます。裏返して言えば、シグネチャーはちよつと重めのリードなのかもしれない。軽やかさを求めるとしたら、アメリカンカットをぜひ試してみるといいです。

——硬さはシグネチャーと同じ？

林田 一緒ですね。同じ番号を選んでいいと思います。

——腰は強く感じられる？

林田 音が明るくなると腰はなくなるはずなのに、腰がきちんと残っている。先端が柔らかくて振動しやすいのに、腰があつて粘るというか。シグネチャーと厚さを比べてみると、アメリカンカットの方が厚い

アメリカンカットはレジェール嫌いの人も振り向かせる魅力があると思う。

ですよ。それとも関係しているかも知れない。

——曲や状況によってシグネチャーと使い分けているのですか？

林田 使い分けてます。このシールが貼つてあるリードはシグネチャーで、もう3年も使い続けてます。

——お弟子さんにもレジェールを勧めていますか？

林田 葦のリードの変質についていけなかったり、葦のリード調整に自信がない人でリードに苦労したくないという人には勧めます。最初はまず、レジェールに合うマウスピースを選ぶことから始めます。その労力は、葦のリード選びの苦勞を考えればかける価値のあるものだ僕は思いますね。

——レジェールに合うマウスピースをどのように選んで行くのですか？

林田 まずレジェールを3枚くらい購入

し、今使っているマウスピースで吹いてみます。その中で、ベストとは言えなくても感触が一番良いリードで、新しいマウスピースを選んでいく。きっとそのリードにぴったりはまるマウスピースが見つかると思います。慣れて来れば、レジェールで選んだマウスピースは葦のリードでも絶対に合います。これは保証します。

生徒の音づくりで最初の難関は、リード選びなんです。そんなとき、まずはレジェールで音出しをして、しばらく吹いて慣れて来たら、今度は葦のリードでそれと同じ吹き心地になるものを選ばせたり、削り方を教えたりするのもアリだと思います。もちろんレジェールに乗り換えてしまう人もいでしょう。

いずれにしろ、安定したリードを一度体験してみることがどんな人にもメリットは大きいと思います。

